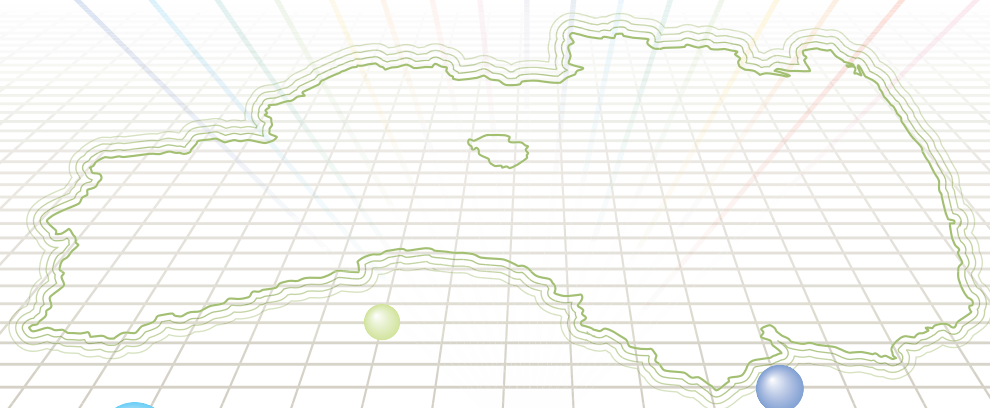


福島県新長期総合計画

うつくしま21

地球時代にはばたくネットワーク社会
～ともにつくる美しいふくしま～



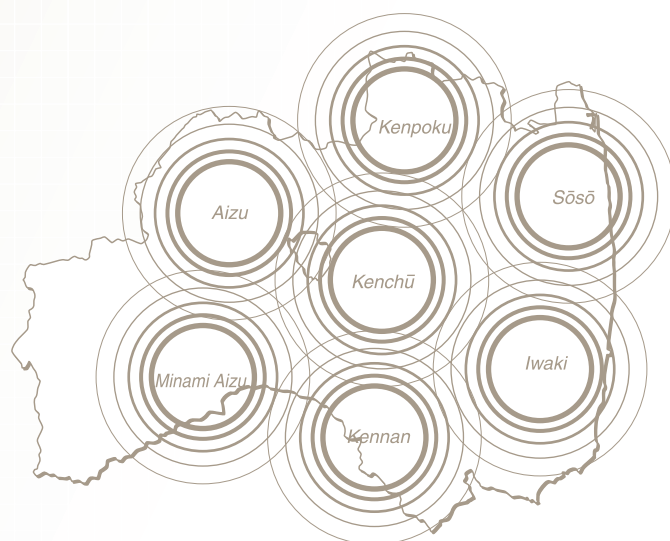
うつくしま、ふくしま。

福島県

福島県新長期総合計画

うつくしま21

地球時代にはばたくネットワーク社会
～ともにつくる美しいふくしま～



地球時代にはばたくネットワーク社会 ～ともにつくる美しいふくしま～



今、私たちは、20世紀型社会と21世紀型社会の分水嶺に立っています。

そこからは、私たちが歩んできた20世紀と、これから歩もうとする21世紀の双方を眺めることができます。

20世紀は、一言でいうと「成長の時代」でした。

私たちは、科学技術の急速な発達に支えられて、かつてない生活の快適さと利便性を手にすることができました。

その一方で20世紀は、急速な成長の陰で、ともすれば、個性やゆとり、あるいは自然の大切さなどが見過ごされてきた時代でもありました。

そして今、私たちは「成熟の時代」に向かいつつあります。

多くの人々が、本当の意味で人間が尊重される社会や、人と自然が共生できる社会の形成などに取り組みはじめています。

そのような意味で、今世紀初頭は、単なる世紀の変わり目ではなく、社会の在り方や、さらには文明そのものの転換点であるということが出来ます。

私は、21世紀の「ふくしま」を、「一人ひとりが、その幸せをどこに求めるのか自ら決定できる社会」にしていきたいと考えています。

そして、「ふくしま」で活動する人々や団体が、相互に対等な関係を広げながら躍動する社会、つまり水平的な広がりを持ったネットワーク型の社会こそが、そのような社会であると考えています。

未来は、やってくるものではなく、自らつくり上げていくものです。

21世紀をリードする「美しいふくしま」を築き上げていくため、この「うつくしま21」が、県民の皆様や市町村などの共通の拠りどころとなることを期待してやみません。

終わりに、計画の策定に当たりまして熱心に審議検討いただきました県総合開発審議会の委員の皆様をはじめ、貴重な御意見をお寄せいただきました多くの方々に、心から御礼申し上げます。

平成12年12月

福島県知事 佐藤 栄久



は じ め に

1 計画策定の趣旨

21世紀を迎え、本県を取り巻く環境は、これまで以上にめまぐるしく変化し、また、社会のさまざまな要素がより複雑に関連するようになってきています。

このような中では、激しい時代の波に翻弄されることなく、本来あるべき姿を描き、これをしっかりと見据えながら、意識的に県づくりを進めていくことが求められます。

本県は、平成4年に、全国に先駆けて「美しい」という概念を基本目標に取り込んだ「ふくしま新世紀プラン」を策定し、「21世紀の新しい生活圏－美しいふくしま－の創造」をめざしてきました。

この福島県新長期総合計画「うつくしま21」では、21世紀の最初の10年間で、新しい世紀の、そして新しい千年紀の「美しいふくしま」を支える新しい社会システムの構築のために充てたいと考えています。

私たちは、「ふくしま」で活動するさまざまな主体が、このような社会システムの構築を共通の目標とし、その実現に向けてともに取り組んでいくためのよりどころとなることを期待して、この計画を策定しました。

2 計画の期間

この計画は、平成13年（2001年）度を初年度とし、平成22年（2010年）度を目標年度とする10か年計画です。

3 計画の特徴

この計画は、「ふくしま」で活動するさまざまな主体が共通理解の下に、県全体として、新たな社会システムの構築に取り組むことを期待しています。

このため、県民アドバイザー制度の創設や資料の公表を通じて、検討段階から県民の参画を得ながら策定を進めてきました。

また、目標年度における本県の姿を、県民生活に密接に関連する指標等を用いて示すなど、これまで以上に分かりやすい計画とすることに配慮しています。

さらに、県が特に重点的に取り組む施策（重点施策）については、県の施策の努力目標としての指標を掲げるなど、実効性の確保にも配慮しています。

4 計画の構成

この計画は、「第1編 基本構想」「第2編 基本計画」「第3編 地域構想」から構成され、各編はそれぞれ次のような内容となっています。

第1編 基本構想

- ・ 本県の特性やこれからの時代認識を踏まえ、県づくりの理念や本県がめざす姿を明らかにしています。
- ・ また、目標年度である平成22年（2010年）度の本県のイメージを、より具体的な文言や指標等を用いて分かりやすく示しています。

第2編 基本計画

- ・ 「重点施策体系」と「基本施策体系」で構成されています。
- ・ 重点施策体系は、基本目標の実現のために、県が特に重点的に行う施策について、それぞれの課題別に分かりやすく示しています。
- ・ 基本施策体系は、本県がめざす姿の実現に向けた県の施策を、各施策分野ごとに総合的・体系的に示しています。

第3編 地域構想

- ・ 各地域の基本的発展方向や各地域において展開される主な取組みを示しています。

計画の全体構成は次頁をご覧ください。



福島県新長期総合計画

計画期間：平成13年度（2001年度）――

福島県がめざす将来像はこのような姿です。[第1編 基本構想]

基本目標

地球時代にはばたくネットワーク社会
——ともにつくる美しいふくしま——

本県の特長

- ①豊かな自然環境
- ②特色ある県土構造
- ③有利な地理的条件
- ④本県の発展を支える基盤
- ⑤地域づくりへの取り組み

新しい世紀の時代認識

- ①社会の成熟化
 - 人間の尊重
(多様な価値観の尊重)
 - 地方分権の進展
 - 少子・高齢社会
- ②環境との共生へ
- ③大交流・大競争の時代へ
- ④高度情報社会へ

県づくりの理念

- 一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会の形成
- 持続的発展が可能な地域社会の形成

人間・人格・人権の尊重

自然と共生する
環境負荷の少ない
社会の形成

独自の歴史・文化・
個性を尊重した
地域づくりの推進

県づくりの理念とは？

新しい世紀にふさわしい社会システムの構築に向け、県民・民間団体、市町村、県が連携・協力しながら効果的に県づくりを進めていくために共有する理念です。

21世紀初頭の主要課題

- ①新世紀を担う人づくり
- ②いきいきと生活し、能力を十分に発揮できる環境づくり
- ③安全で安心できる生活の確保
- ④少子化・高齢化への対応
- ⑤美しい環境の保全と創造、環境への負荷の少ない社会づくり
- ⑥創造性と活力ある産業の振興
- ⑦情報環境の整備と利活用の促進
- ⑧本県の特長を生かした活力とゆとりある県づくり

21世紀の「ふくしま」はどんな姿？

21世紀の「ふくしま」のイメージ

- 人** 多様で主体性をもった個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる「ふくしま」
- くらし** くらしの豊かさをより積極的に味わうことのできるゆとりある「ふくしま」
- 産業** 新しい時代にふさわしい創造的で活力ある産業が展開する「ふくしま」
- 環境** 自然と共生する地球にやさしい「ふくしま」
- 地域** 一人ひとりの積極的な参加で地域の個性を磨く、魅力あふれるふるさと「ふくしま」

2010年の県民社会の姿

- ①人口と経済の姿
総人口209～214万人
1人当たり県民所得332～349万円
- ②県民のくらしを表す代表的指標
31の指標を設定

新世紀へのメッセージ

- うつくしま未来博の開催
- 首都機能移転への取り組み

計画の実現に向けて

- ①“うつくしま、ふくしま。”県民運動
- ②役割分担と連携
- ③実効性の確保

うつくしま21の構成

平成22年度（2010年度）

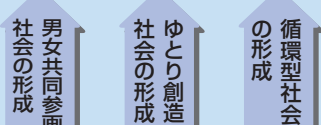
県はこのような施策に取り組めます。[第2編 基本計画]

重点施策体系

『県づくりの理念』が示す新しい世紀の価値観（「人間の尊重」や「自然との共生」など）を基調とする社会の実現に向け、県が重点的に取り組む施策を示しています。（達成度を測る61の指標を設定）

県づくりの理念が示す社会

新たな社会
システムの創造



参加と連携による地域づくり

新たな発展の土台づくり

- 新時代に対応した活力ある産業の育成
- 多極交流圏の形成
- 個人の可能性が発揮できる舞台づくり

基本施策体系

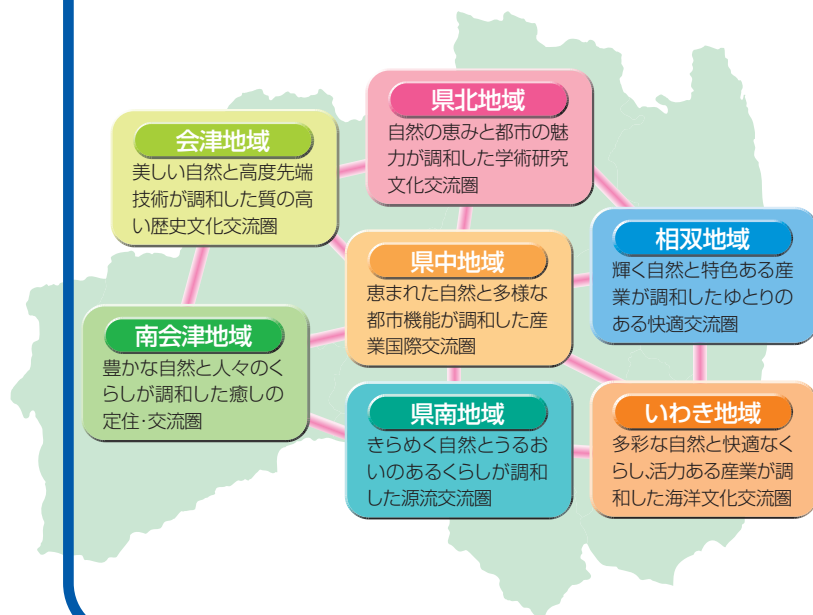
『21世紀の「ふくしま」のイメージ』に示された「人」「くらし」「産業」「環境」を基本施策体系の柱（大項目）とし、その将来イメージの実現をそれぞれの柱の目標としています。そして、「人」と「地域」を支えるものとして補項目に位置付けた「基盤」を含めた5つの柱に沿って、県の施策を総合的・体系的に示しています。（107の小項目の下に1122の施策の方向を体系化）



調和のとれた七つの生活圏づくりを進めます。[第3編 地域構想]

●地域づくりの基本目標●

一人ひとりの参加で個性を磨く、魅力あふれるふるさと「ふくしま」
—多極ネットワークの新たな展開—



地域別構想

七つの生活圏ごとに、その将来像や基本的発展方向、主要な施策（地域の特色があるもの、実施地区を特定できるものを中心に410）などを示しています。

相互連携による生活圏の展開戦略

七つの生活圏相互の連携・機能補完など、広域的、重層的な視点から取り組む生活圏の主要な展開戦略を示しています。（5つのゾーンを設定）

広域連携

多様で複雑な地域課題を解決するために、県内外を問わず隣接する地域が連携・協力して広域的な地域づくりを進めます。（14の取組を記載）



第1編 基本構想

第1章 基本目標2

第1節 本県のあゆみ2

第2節 本県の特長3

- 1 豊かな自然環境3
- 2 特色ある県土構造3
- 3 有利な地理的条件4
- 4 本県の発展を支える基盤4
- 5 地域づくりへの取組み5

第3節 新しい世紀の時代認識6

- 1 社会の成熟化7
 - ①人間の尊重へ～多様な価値観の尊重～7
 - ②地方分権の進展7
 - ③少子・高齢社会、人口減少社会へ7
- 2 環境との共生へ8
- 3 大交流・大競争の時代へ8
- 4 高度情報社会へ9

第4節 基本目標10

- 1 県づくりの理念10
- 2 基本目標11

第2章 21世紀初頭の主要課題12

- 1 「新世紀を担う人づくり」に向けての視点13
- 2 「いきいきと生活し、能力を十分に
発揮できる環境づくり」に向けての視点13
- 3 「安全で安心できる生活の確保」に向けての視点13
- 4 「少子化・高齢化への対応」に向けての視点14
- 5 「美しい環境の保全と創造、環境への
負荷の少ない社会づくり」に向けての視点14
- 6 「創造性と活力ある産業の振興」に向けての視点14
- 7 「情報環境の整備と利活用の促進」
に向けての視点15
- 8 「本県の特長を生かした活力と
ゆとりある県づくり」に向けての視点15

第3章 21世紀の「ふくしま」16

第1節 21世紀の「ふくしま」のイメージ17

第2節 2010年の県民社会の姿19

- 1 人口と経済の姿19
 - ①人口20

- ②経済22
- 2 2010年の県民のくらしを表す代表的な指標26
 - ①人に関する指標26
 - ②くらしに関する指標28
 - ③産業に関する指標30
 - ④環境に関する指標31
 - ⑤基盤に関する指標32

第3節 新世紀へのメッセージ33

- 1 うつくしま未来博の開催33
- 2 首都機能移転への取組み34

第4章 計画の実現に向けて35

第1節 “うつくしま、ふくしま。” 県民運動36

第2節 役割分担と連携37

- 1 県民参加による地域づくり37
- 2 市町村主体の地域づくり38
- 3 計画推進に際しての県の姿勢38
 - ①この計画での県の役割38
 - ②県の基本的な役割38
 - ③市町村等とのパートナーシップの強化39
 - ④行財政改革の推進39

第3節 実効性の確保40

- 1 各年度における推進方法40
- 2 計画の進行管理40

第2編 基本計画

第1章 重点施策体系42

第1節 新たな社会システムの創造44

- 1 男女共同参画社会の形成45
 - ①男女平等意識の確立45
 - ②女性のエンパワーメントの支援46
 - ③男女がともに育児や介護と
仕事を両立できる環境整備47
- 2 ゆとり創造社会の形成48
 - ①育児・介護に対する負担の軽減48
 - ②豊かな自然や身近な緑とのふれあい50
 - ③ユニバーサル・デザインのまちづくり51
 - ④「自分らしい生き方」の実現52
- 3 循環型社会の形成53
 - ①森・川・海を一体としてとらえた
「循環の理念」の具現化53



②環境への負荷の少ないライフスタイルの実現	55
③産業活動と環境の調和	56
4 参加と連携による地域づくり	57
①“うつくしま、ふくしま。”県民運動の推進	57
②ボランティア・NPO活動の促進	58
第2節 新たな発展の土台づくり	59
1 新時代に対応した活力ある産業の育成	60
①研究開発の促進	60
②物流効率化の推進	61
2 多極交流圏の形成	62
①大交流時代における魅力ある滞在空間の形成	62
②高度情報先進地域の形成	63
3 個人の可能性が発揮できる舞台づくり	64
①新しい産業を支える創造的な人材の育成	64
②高齢者の有する豊富な知識・経験の活用	65

第2章 基本施策体系 66

第1節 多様で主体性を持った個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる「ふくしま」68

1 ともに学び、ともに育つ教育の推進のために	70
①生きる力の育成とゆとりある学校生活の実現	70
②一人ひとりの個性に応じた多様な学習機会の拡充	71
③子どもの悩みを受け止められる教育の推進	73
④障害のある子どもたちの教育の充実	74
⑤社会の変化に的確に対応した教育の推進	75
2 創造性と個性豊かな多様な人材の育成のために	76
①次代を担う青少年の健全育成	76
②生きる力を育む幼児教育の充実	77
③男女共同参画社会形成に向けた人材の育成	78
④県の活力を担う創造性豊かな人材の育成	79
⑤地球時代を生きる人材の育成	80
⑥ボランティア活動への支援	81
3 意欲に応じた生涯学習機会の充実のために	82
①人生を豊かにする生涯学習の普及啓発	82
②多様で魅力的な生涯学習機会の提供	83
4 人を育む多様な基盤の形成のために	84
①教育環境の整備充実	84
②県立大学の整備充実	86
③学校教育と家庭、地域社会との連携強化	87
④生涯学習基盤の整備	88
⑤国際交流の環境整備	89
⑥地域づくりの担い手の育成	90

第2節 暮らしの豊かさをより積極的に味わうことのできるゆとりある「ふくしま」92

1 ともに生きる社会の形成のために	94
①男女の人権が尊重され、 ともに参画する社会の形成	94
②ともに支え合う地域福祉の推進	96
③高齢者保健福祉サービスの充実	97
④高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進	98
⑤障害者の自立・社会参加の促進と 障害者福祉サービスの充実	99
⑥子育て環境の整備と子どもの健全育成	100
2 ゆとりと豊かさに満ちた多彩な 暮らしの展開のために	102
①多様な選択を可能にする就業条件の整備	102
②働きやすい環境づくりと労働福祉の充実	103
③安らぎをもたらす 個性あふれる文化の創造と伝承	104
④生涯にわたるスポーツライフの実現	105
⑤多彩なレクリエーション活動の推進	106
⑥多様な主体の参加と連携による 地域づくり活動の活性化	107
3 生涯にわたる健康な暮らしの確保のために	108
①総合的な健康づくり活動の推進	108
②ライフステージや疾病に応じた 保健予防対策の充実	109
③保健医療提供体制の整備充実	110
④医薬品の安全対策等の推進	112
⑤生活衛生等の確保	113
4 安全が確保され、 安心できる暮らしの実現のために	114
①総合的な消防・防災体制の整備	114
②交通安全対策の推進	116
③地域安全活動の推進	117
④消費者の自立支援と被害の未然防止	118
⑤被害者等支援の推進	119
⑥原子力発電所周辺地域の 安全確保と防災対策の充実	120
5 暮らしを支える多様な基盤の形成のために	121
①地域内交通ネットワークの整備	121
②良好な居住環境づくり	122
③あらゆる分野のバリアフリー化の推進	123
④ゆとりと潤いに満ちた美しい生活空間の整備	124
⑤保健・医療・福祉の連携の推進	125

⑥保健・医療・福祉人材の確保と資質の向上	126	④大気、水、土壌等の保全対策の推進	161
⑦地域の特性を生かす		⑤ダイオキシン類、環境ホルモン等	
スポーツ・文化施設等の整備充実	127	有害化学物質対策の推進	162
⑧生活用水の確保と上水道の整備	128	⑥環境と調和した事業活動の展開	163
⑨くらしを守る自然災害対策の充実	129	2 人と自然の共生の確保のために	164
⑩時代の変化に対応できる警察活動基盤の整備	131	①多様な自然環境の保全と	
第3節 新しい時代にふさわしい創造的で活力ある産業が展開する「ふくしま」	132	野生生物の保護・管理の推進	164
1 活力ある農林水産業の持続的発展のために	134	②水と緑の保全、創造	165
①豊かで魅力ある農業の振興	134	③自然との豊かなふれあいの推進	167
②21世紀の豊かな森林、		④農林水産業の多面的機能の発揮	168
活力ある林業・木材産業づくり	137	3 地球環境保全への	
③豊かで魅力ある水産業の振興	138	積極的な取組みの推進のために	169
2 創造的事業活動の促進と		①地球温暖化対策の推進	169
未来を拓く新産業の創出のために	139	②オゾン層保護、酸性雨対策等の推進	170
①新事業創出のための環境整備	139	4 環境との共生を支える	
②研究開発機能の強化	140	多様な基盤の形成のために	171
③新しい産業の育成	141	①環境教育、環境学習の推進	171
④産業立地・集積の促進	142	②環境保全に向けた多様な主体の参加と連携	172
3 経済環境の変化に柔軟に		③環境影響評価の推進	173
対応した産業活動の展開のために	143	④良好な景観の保全と創造	174
①まちづくりの観点に立った商業の振興	143	⑤下水道施設等の整備促進	175
②くらしや産業を支えるサービス産業の振興	144	⑥環境と調和のとれた土地利用の推進	176
③環境変化に対応した中小企業の振興	145	⑦環境に関する総合的な	
④地域資源を生かした産業の振興	146	調査研究、監視体制の整備	177
4 本県の特性を生かした		第5節 人と地域を支える基盤	178
交流型産業の振興のために	147	1 “うつくしま、ふくしま。”県民運動の推進	180
①交流型・体験型観光の振興	147	①県民一丸となった運動の推進	180
②魅力ある観光・リゾート地づくりの推進	148	②「うつくしま未来博」の開催	181
③国内外との交流による地域経済の活性化の推進	149	2 高度情報社会の構築に向けた基盤整備	182
5 産業を支える多様な基盤の形成のために	150	①高度情報通信基盤の整備	182
①職業能力開発の推進	150	②高度情報システムの整備	183
②雇用対策の推進	151	③県民の情報利活用能力の向上	184
③農林水産業関連基盤の整備	152	3 広域交流を支える交通ネットワークの形成	185
④企業立地基盤の整備	153	①高速道路の建設促進と活用促進	185
⑤物流の効率化と物流基盤の整備	154	②地域高規格道路をはじめとする幹線道路の整備	185
第4節 自然と共生する		③鉄道網等の整備充実	186
地球にやさしい「ふくしま」	156	④港湾の整備と活用促進	186
1 環境への負荷の少ない		⑤福島空港の機能拡充と利用促進	187
循環型社会の形成のために	158	4 特定地域の活性化	188
①資源・エネルギーの有効利用	158	①中山間地域の活性化	188
②廃棄物の減量化・リサイクルの推進	159	②広域連携による地域振興	191
③廃棄物の適正処理の推進	160	③魅力ある都市づくりと中心市街地の再生	192
		5 安定的な水供給、エネルギー関連施策	193



①持続的水利用システムの推進	193
②エネルギー関連施策の推進	195
6 総合的な土地対策の推進	197
①総合的かつ計画的な土地利用の推進	197
②土地の取引と利用の適正化	198

第3編 地 域 構 想

第1章 地域づくりの基本的考え方……………200

第1節 地域づくりの基本目標	202
第2節 21世紀の地域づくりの視点	203
第3節 地域区分	205
第4節 相互連携による生活圏の展開戦略	207
1 県北・県中・県南地域を包括する圏域 (中通り軸産業国際交流ゾーン)	207
2 会津・南会津・県南地域を包括する圏域 (会津軸・南部軸広域交流ゾーン)	208
3 いわき・相双地域を包括する圏域（東日本沿岸 中核都市ゾーン・大エネルギー定住ゾーン）	209
4 県北・相双地域を包括する圏域 (北部軸広域交流ゾーン)	210
5 いわき・県中・会津地域を包括する圏域 (横断道軸広域交流ゾーン)	211

第2章 広域連携……………212

第1節 広域連携の必要性	212
第2節 交流基盤の活用	212
第3節 広域連携の取組みの展開	212
□21世紀F I T構想	215
□南東北中枢広域都市圏構想	216
□山形・新潟県際地域での交流	217
□磐越自動車道を活用した広域的な地域づくり	218
□流域連携による地域づくり	219
□東北インテリジェント・コスモス構想	220
□北海道・東北21世紀構想（ほくとう銀河プラン）	221
□阿武隈地域総合開発事業	222
□会津フレッシュリゾート構想	223
□郡山地域高度技術産業集積活性化計画	224
□新「歳時記の郷・奥会津」活性化事業	225
□ふくしま沿岸域総合利用構想	226
□いわき振興拠点地域構想	227
□地方拠点都市地域整備事業	228

第3章 地域別構想……………229

□地域別構想の構成	229
□七つの地域の姿	230
□七つの地域の将来像	231
1 県北地域	233
地域の現状・特性	234
地域の課題	235
地域の将来像、基本的発展方向	236
主要な施策	238
2 県中地域	245
地域の現状・特性	246
地域の課題	247
地域の将来像、基本的発展方向	248
主要な施策	250
3 県南地域	257
地域の現状・特性	258
地域の課題	259
地域の将来像、基本的発展方向	260
主要な施策	262
4 会津地域	267
地域の現状・特性	268
地域の課題	269
地域の将来像、基本的発展方向	270
主要な施策	272
5 南会津地域	279
地域の現状・特性	280
地域の課題	281
地域の将来像、基本的発展方向	282
主要な施策	284
6 相双地域	289
地域の現状・特性	290
地域の課題	291
地域の将来像、基本的発展方向	292
主要な施策	294
7 いわき地域	301
地域の現状・特性	302
地域の課題	303
地域の将来像、基本的発展方向	304
主要な施策	306

付属資料……………313

用語解説……………321

第1編

基本構想

第1章 基本目標

第2章 21世紀初頭の主要課題

第3章 21世紀の「ふくしま」

第4章 計画の実現に向けて



第1章 基本目標

21世紀を迎え、社会経済情勢は、これまで以上にめまぐるしく変化することが予想されます。

そして、このような中でこそ、改めて足下を見つめなおし、そこから目を未来に転じて、私たちが進む方向をしっかりと見定めることが必要です。

21世紀の「ふくしま」は、どうあるべきでしょうか。

ここでは、これまでの本県のあゆみや、20世紀に築かれた基盤とポテンシャルを含めた本県の特徴、そしてこれからの時代認識を踏まえながら、私たちがめざす21世紀の「ふくしま」を考えていくこととします。

第1節 本県のあゆみ

現在の福島県は、明治9年に旧福島県、^{いわさき}磐前県、若松県の3県が統合して、ほぼ今日の姿となりました。その2年後には全国に先駆けて県議会を設置し、以来、多くの先人のたゆまぬ努力によって、19世紀末から20世紀にわたる社会経済情勢の大きな変動を乗り越え、今日の県の基盤が築かれてきました。

明治から昭和初期にかけては、東北本線・常磐線等の鉄道や幹線道路等の交通基盤が整備され、また、安積疏水の建設による安積開拓、常磐炭田の開発、養蚕・製糸・絹織物業をはじめとする産業の振興によって本県の発展の基礎が築かれました。

戦後は、昭和26年に始まった只見地域電源開発等により、本県は全国有数の電力供給地として我が国の復興と高度経済成長を支え、また、昭和39年には常磐・郡山地区が「新産業都市」に指定され、東北地方南部における拠点的な都市・産業基盤の整備が図られました。

その後、昭和50年の東北縦貫自動車道開通によって本県は高速交通時代を迎え、以後、東北新幹線の開業、常磐自動車道、東北横断自動車道（磐越自動車道）等の供用開始、福島空港の開港等によって全国と結ぶ高速交通ネットワークの整備が急速に進みました。

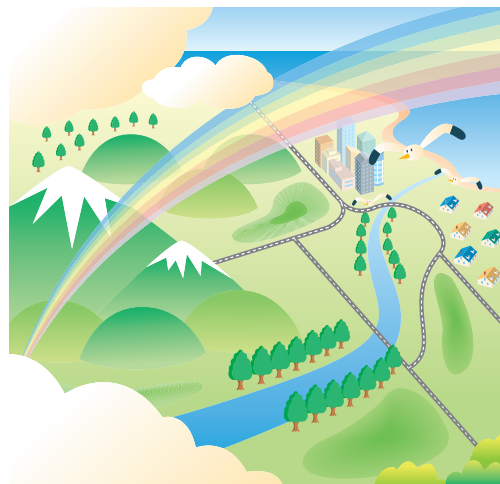
さらに、平成10年には釜山や台中等との外国貿易コンテナ定期航路、11年には上海・ソウルとの国際定期路線が開設され、大交流の時代にふさわしく、本県も直接世界と交流する時代を迎えています。

第2節 本 県 の 特 性

1 豊かな自然環境

本県は、全国第3位の広大な面積を有しており、その県土の7割を豊かな森林が占めています。

この広大な県土に、標高2,000m級の山々、総延長4,844kmに及ぶ主要河川、猪苗代湖をはじめとする数多くの湖沼、160kmに及ぶ海岸線、各地に点在する温泉地など豊かで多様な自然を擁するうえ、四季の彩りに恵まれています。



また、磐梯朝日国立公園に指定されている裏磐梯地区や、日光国立公園に指定されている尾瀬地区など、世界にも誇ることのできる優れた景観や自然環境を有しています。

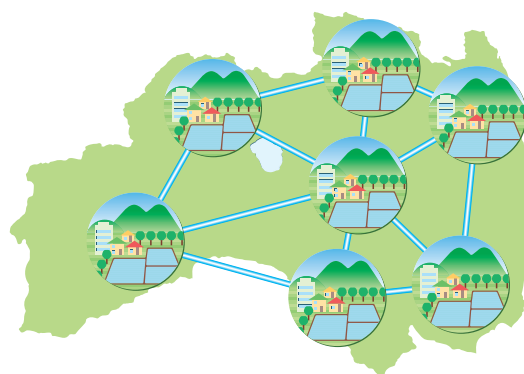
これらは、未来に引き継ぐ貴重な財産とすることができます。

さらに、阿武隈川、阿賀川、久慈川などの多くの源流域を有しているなど、本県は、森・川・海を一体としてとらえる「循環の理念」に基づいた地域づくりを、自らの手で展開できる可能性を有しています。

2 特色ある県土構造

本県の広大な県土は、南北に縦断する阿武隈高地・奥羽山脈によって、それぞれに気候・風土の異なる、浜通り、中通り、会津の3地方に区分されています。

また、特定の都市に人口や機能が集中することなく、県内各地にヒューマンスケールの都市が分散した特色ある多極分散型の県土構造となっており、その中で、都市と農山村が、機能分担と連携によって、それぞれの特性を生かしながら、7つの特色ある生活圏をかたちづくっています。



そして、近年の高速交通体系の整備に伴う生活圏相互の時間距離の短縮が、県民の選択の可能性を一層高めています。

このような、多極分散型の構造を大切にする考え方は、今後の地域づくりのモデルになるものと考えられています。



3 有利な地理的条件

東京から概ね200km圏に位置するという地理的優位性が、新幹線や高速道路などの交通体系の整備によって一層高まっています。

このように東京圏に近接している一方、本県は、幸いに、いまだ豊かな自然に恵まれています。

そして、21世紀には、このような自然が改めて評価されることになるものと考えられます。

日本全体の人口が確実に減少期に入ることが予想される中で、3,300万人の人口を擁する東京圏に近接した本県は、交流によって活力を維持していくためにも、極めて有利な地理的条件にあるということが出来ます。

また、人々の行動範囲が都道府県の区域も越え、一層広域化する新しい世紀では、都道府県相互の適切な役割分担が求められることになります。

本県は、宮城、山形、新潟、群馬、栃木、茨城の6県に境を接しており、これら隣接各県との連携により、相互の魅力を相乗的に高めていくことが可能です。



4 本県発展を支える基盤

本県は、中通り軸、会津軸、浜通り軸の縦軸と、横断道軸、北部軸、南部軸の横軸の結節点を生活圏としてとらえ、七つの生活圏それぞれが、その特性を生かしながら相互の連携を強化し、県全体としての魅力を高めていくことが重要と考えてきました。

その結果、各生活圏ごとの振興の拠点となる施設の整備は着実に進展しており、また、生活圏相互の交流を支える交通体系も飛躍的に整備が進んでいます。

さらに、福島空港や小名浜港などの国際交流拠点の整備も進んでいます。

大交流の時代を迎え、本県の有する多様で多極的な交流資源を有機的に結び付け県全体の魅力を相乗的に高めることが、一層重要性を増すものと考えられます。

一方、全国初のコンピュータ理工学部を設けた会津大学の開学や、県立医科大学看護学部



の設置など、急速に進む高度情報社会や高齢化社会を支える人づくりの基盤整備も進んでいます。

5 地域づくりへの取組み

本県では、地域ぐるみでその特性を生かした地域づくりを進めるため、「ふるさと産業おこし運動」などを積極的に展開してきました。

加えて近年、県内各地では、地域の活性化に向けたさまざまな活動が民間団体やNPO、個人などの多様な主体によって展開されており、自らの地域を自ら考え自ら良くしていこうという動きが活発化しています。

一方、「21世紀の新しい生活圏－美しいふくしま－の創造」をめざす“うつくしま、ふくしま。”県民運動は、ふくしま国体や全国身体障害者スポーツ大会（うつくしまふくしま大会）の大成功を通じて、本県の美しい自然や街並み、温かな県民性などを広く全国にアピールするなど、着実にその成果を上げてきています。

また、本県は、明治11年に全国に先駆けて県議会を設置し、さらに、平成6年には、「地方分権・うつくしま、ふくしま。宣言」で、住民を基本にした“新市町村主義”を提唱するなど、地方分権先進県ということが出来ます。

このような考え方や取組みは、新しい世紀の地域づくりを推進する上で、極めて重要なものです。





第3節 新しい世紀の時代認識

本県を取り巻く社会経済情勢は大きく変化していますが、本県のあるべき姿を描くためには、その変化から社会全体がどのような方向に向かっているのか、また、新しい時代の価値観はどのようなものかを読み取る必要があります。

ここでは、社会経済情勢の変化を、「社会の成熟化」、「環境との共生へ」、「大交流・大競争の時代へ」、「高度情報社会へ」の4つの側面からとらえることとします。

「社会の成熟化」



「環境との共生へ」



「大交流・大競争の時代へ」



「高度情報社会へ」

1 社会の成熟化

① 人間の尊重へ～多様な価値観の尊重～

戦後50年間の経済発展によって実現された、世界的に見ても高い所得水準などを背景として、くらしの豊かさをより積極的に味わおうとする傾向が強まっています。

また、これまで我が国経済の発展を支えてきた企業中心・仕事中心のいわゆる「集団への帰属」から「個人の重視」へと人々の価値観は移行しています。

このように、自分が自分らしく生きることを求める傾向は、ボランティア活動や地域づくり活動などへの参加を通じて、自己を実現しようとする動きにも現れています。

こうした中、改めて「公」の意味が問い直されており、NPOなどの新しいかたちで、「公」の役割を自ら担おうとする動きも活発化しています。

他方、人と人との関係の希薄化や地域コミュニティ機能の低下、あるいは社会の中での孤立などさまざまな問題も生じています。

さらに、いじめ・虐待や暴力など、子ども・高齢者や女性などの人権が大きな社会問題となっています。

社会の成熟化が進む中で生じているこのような問題についても、しっかりと認識しておく必要があります。

② 地方分権の進展

我が国の戦後の飛躍的な発展を支えてきた画一的・中央集権的な行政システムは、内外の社会経済情勢の大きな変化の中で、その対応力を失いつつあります。

このような中、個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現するため、都道府県や市町村が主体性を確保しながら、地域の個性と実情に応じた地域づくりを行えるようなしくみの一層の充実強化が求められています。

③ 少子・高齢社会、人口減少社会へ

我が国の出生率は低下を続け、総人口が均衡を保つために必要な水準を大きく下回っています。

国等の推計によれば、我が国の総人口はこのような出生率の低下が主な要因となって、21世紀初頭には減少局面に入るものと予想されています。

一方、我が国は、生活環境の向上や医療技術の進歩などによって世界的な最長寿国とな



っており、名実ともに「人生80年」時代を迎えています。

少子化・高齢化の進行は、それ自体は、社会の成熟化によるものですが、高齢者単独世帯や要介護者の増加のほか、人口構造の急激な変化による現役世代の負担増などさまざまな影響をもたらすものと考えられ、そのような意味で21世紀における最も重要な課題といえることができます。

2 環境との共生へ

これまでの人類活動の結果、地球の温暖化、オゾン層や森林の破壊、大気・海洋汚染の進行など地球規模で環境問題が深刻化しています。

また、廃棄物の排出量は年々増加傾向にあり、その種類も多様化し、廃棄物処理を巡る問題も極めて深刻化しています。

さらには、ダイオキシン類や環境ホルモンによる生態系への影響など新しい環境問題に対する人々の不安も増大しています。

環境問題の多くは、私たちの通常の事業活動や日常生活による環境への負荷によるところが大きく、これらの解決のため、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会システムを見直し、環境への負荷の少ない社会を構築していく必要があります。

3 大交流・大競争の時代へ

交通の発達や情報通信技術の著しい進歩により、地球規模で人、もの、情報、資本の交流量が増大するとともに、さまざまな分野で世界的な標準化（グローバル・スタンダード）が進むなど、21世紀は、これまでにない大交流・大競争の時代に入り、地域や企業が直接世界と交流し、あるいは競争する機会がますます増大することが予想されます。

戦後の日本を支えてきた画一的な社会システムや護送船団方式ともいわれる経済システムは、このような流れに対応することが困難となり、むしろ世界との交流を妨げる足かせとなりつつあります。

21世紀は、それぞれの地域や企業が直接世界から、その魅力を問われる時代になると考えられます。そのため、世界的なルールを意識しながら規制緩和や地方分権を進め、それぞれの地域・企業がその個性や持てる力を十分に発揮できる社会システムを築き上げる必要があります。

また、このような交流は、世界のさまざまな地域の異なる価値観への相互理解の上に成り立つものです。

私たちには、世界全体の調和の中で生きる工夫や、常に世界との関わりを意識しながら地域づくりを進めることが求められます。

4 高度情報社会へ

情報通信技術の飛躍的な進歩により、社会生活や産業活動のあらゆる分野で情報化が進んでおり、近年、特に、インターネットをはじめとするネットワークの拡大や、携帯電話などの移動系通信の普及が著しいものとなっています。

今後、情報通信技術の高速化・大容量化が進み、21世紀初頭には、地球規模で情報流通の時間的・距離的制約が克服されると言われています。

このような情報化の進展は、私たち一人ひとりが、直接世界の人々とネットワークを形成し、それらの人々と瞬時に情報を共有するなど、時間や空間の観念を大きく変え、さらには、社会の在り方そのものをも変革していく可能性を有するものです。

また、地域間での情報格差が解消の方向に向かうとともに、在宅勤務などの就労形態の多様化や、高齢者や障害のある人々の社会参加が進むなど、さまざまな分野で選択の可能性が拡大するものと予想されます。

一方、情報化への対応能力の個人差の拡大や、量的・質的に増大する情報から必要な正しい情報を選択するための能力が、これまで以上に求められるという側面にも留意する必要があります。





第4節 基本目標

本県は、平成4年に「ふくしま新世紀プラン」を策定し、「21世紀の新しい生活圏－美しいふくしま－の創造」を基本目標に、県づくりを推進してきました。

「美しいふくしま」は、ある水準で達成されるというものではなく、常にさらなる進化に向けた着実な努力の積み重ねを求めるものです。

この計画では、「美しいふくしま」は、それぞれの個人や地域の可能性が最大限に発揮されることを通じて実現されと考え、本県のあゆみや特性、新しい世紀の時代認識を踏まえながら、新世紀にふさわしい社会システムの構築をめざしていきます。



ふくしまイメージデザイン

21世紀に向けて、「うつくしい自然」、「美しいまち」、「美しいところ」を実現し、新しいふくしまを創造するという県づくりの目標を花にたとえて表現しています。

1 県づくりの理念

本県のめざす新たな社会システムは、行政のみの努力で構築できるものではなく、県民一人ひとりや民間諸団体の活動があってはじめて実現できるものです。

「美しいふくしま」の実現に向けて、県民・民間団体、市町村と県が相互に連携し協力しながら効果的に県づくりを進めるためには、県全体として県づくりの理念を共有することが必要です。

この計画では、本県の特長や、新しい世紀の時代認識を踏まえ、「人」と「地域」の可能性の発揮という側面から、

県づくりの理念

- ◇ 一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会の形成
【人間・人格・人権の尊重】
- ◇ 持続的発展が可能な地域社会の形成
【自然と共生する環境負荷の少ない社会の形成】
【独自の歴史・文化・個性を尊重した地域づくりの推進】

を県づくりの理念として掲げます。

2 基本目標

グローバル化の進展や地球規模での環境問題の顕在化の下、私たちはまさに「地球時代」の入り口に立っているといえることができます。

このような中で、「ふくしま」がその可能性を発揮し、魅力を高めていくためには、分散型県土構造などの本県の特長に基づいた地域づくりを推進するとともに、「人間の尊重」や「環境との共生」など、世界的視点からみても普遍性を有する価値観に基づいた地域づくりを進めることが一層重要となっています。

本県はこれまでも、「人」や「地域」の個性や「環境」を重視した県づくりを進めてきました。

この計画では、これまで進めてきた県づくりの成果の上に、人と自然との調和や、産業と環境との調和など新しい調和のかたちを創造しながら、「人」や「地域」の可能性が最大限に発揮できる社会を形成したいと考えています。

21世紀の「ふくしま」は、新しいネットワーク型の社会です。

そこでは、七つの生活圏を基本とした多極ネットワークや情報通信技術を高度に活用したネットワークに加え、「人」と「人」、「地域」と「地域」、「住民」と「行政」などのさまざまなネットワークが多彩に展開しています。

「ふくしま」で活動するさまざまな主体が、水平的な広がりの中で、相互に結び付きを深めながら躍動する社会、この計画ではこのような新しいネットワーク型の社会をめざします。

基本目標

**地球時代にはばたくネットワーク社会
～ともにつくる美しいふくしま～**



第2章 21世紀初頭の主要課題

この計画の基本目標を実現するためには、21世紀初頭に、次の8つの課題に積極的に取り組み、新しい世紀の「ふくしま」の基礎を整えていく必要があります。

1 新世紀を担う人づくり

2 いきいきと生活し、能力を十分に発揮できる環境づくり

3 安全で安心できる生活の確保

4 少子化・高齢化への対応

5 美しい環境の保全と創造、環境への負荷の少ない社会づくり

6 創造性と活力ある産業の振興

7 情報環境の整備と利活用の促進

8 本県の特性を生かした活力とゆとりある県づくり

1 「新世紀を担う人づくり」に向けての視点

- ◆ 多様な学習機会の整備を通じた生涯学習社会の形成
- ◆ 幼児期からの「生きる力」を育む教育や「心の教育」の充実
- ◆ 高等教育機関の多面的機能に対する県民の期待への対応
- ◆ 青少年の健全育成の推進とさまざまな問題を抱えた子どもたちへの適切な対応
- ◆ 文化の香り高い個性豊かな地域社会の継承と形成
- ◆ スポーツの一層の振興を通じた、ゆとりと潤いのある県民生活の実現

2 「いきいきと生活し、能力を十分に発揮できる環境づくり」に向けての視点

- ◆ 男女共同参画社会の形成
- ◆ 年齢や、障害のあるなしにかかわらず、誰もがいきいきとくらすことができる社会の形成
- ◆ 重要性の高まるボランティア活動の促進

3 「安全で安心できる生活の確保」に向けての視点

- ◆ 高度化し多様化する県民の医療ニーズへの的確な対応、また、生涯にわたる健康づくりの推進
- ◆ 災害や重大事故から県民を守り、安全で安心できる生活を確保するための総合的な防災対策の充実
- ◆ 凶悪化・複雑化・多様化する犯罪からの、県民の生命、身体、財産の保護
- ◆ 安全で快適な交通環境の整備



4 「少子化・高齢化への対応」に向けての視点

- ◆ 子どもを安心して生み育てることのできる社会の形成
- ◆ 高齢者が生きがいを持って、いきいきとくらすことができる社会の形成

5 「美しい環境の保全と創造、環境への負荷の少ない社会づくり」に向けての視点

- ◆ 県民、各種団体、事業者等の各主体の連携・協力による環境の保全
- ◆ 貴重な財産である優れた自然環境の後世への継承
- ◆ 豊かな水環境の恩恵の享受、後世への継承
- ◆ 森林との共生、森林の公益的機能の維持
- ◆ 資源・エネルギーの有効活用による、環境への負荷の少ない循環型社会の形成
- ◆ 日常生活や事業活動に伴って発生する廃棄物による環境への負荷の低減
- ◆ 地域からの地球環境保全への取組みの推進
- ◆ ダイオキシン類・環境ホルモン等有害化学物質対策の推進
- ◆ 本県の魅力ある景観の適切な保全、新たな創造

6 「創造性と活力ある産業の振興」に向けての視点

- ◆ 農林水産業の振興（地域資源の活用と高い生産性の発揮）
- ◆ 科学技術の振興による地域経済全体の活性化や新事業の創出
- ◆ 本県のポテンシャルを生かした企業立地の促進
- ◆ 新しい時代に対応した商業・サービス業等の振興
- ◆ ニーズの変化等を的確にとらえた観光の振興
- ◆ 雇用機会の確保、働きやすい環境づくり、時代の要請にこたえる職業人の育成

7 「情報環境の整備と利活用の促進」に向けての視点

- ◆ 過疎地域等における情報通信基盤の整備
- ◆ 情報教育の充実

8 「本県の特性を生かした活力とゆとりある県づくり」に向けての視点

- ◆ 多極ネットワークの新たな展開
- ◆ 各生活圏の核となる都市機能の充実
- ◆ 中山間地域対策の総合的展開
- ◆ 計画的な利用による土地の有効利用の一層の推進
- ◆ 安全でおいしい水の安定供給による生活や産業活動の安定の確保
- ◆ 個性と魅力ある地域づくりの推進





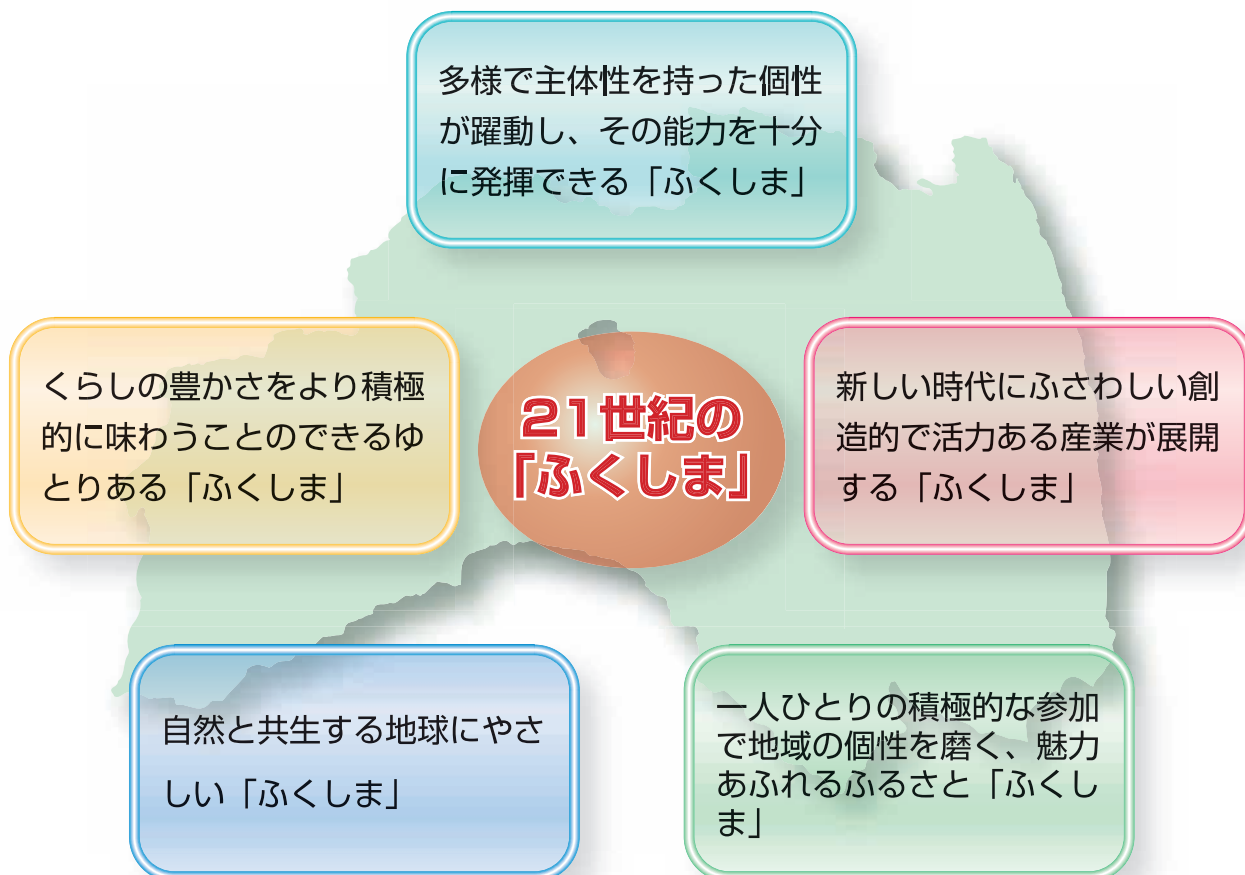
第 3 章 21世紀の「ふくしま」

この計画は、「一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会」、「持続的発展が可能な地域社会」の形成をめざしています。

このような社会の形成に向けた取組みを効果的に展開するためには、この計画がめざす社会のより具体的な姿を明らかにし、さまざまな活動主体の共通認識としていくことが重要です。

ここでは、21世紀の本県のイメージを「人」「暮らし」「産業」「環境」「地域」の5つの側面から描くとともに、2010年の本県の姿を、人口や総生産などの基礎的な指標及び県民生活と密接に関連するさまざまな指標を用いて表すこととします。

また、本県の21世紀を見通すレンズと位置付けられる「うつくしま未来博」の意義について改めて示すとともに、本県の将来を描くために重要な意味を持つ「首都機能移転」について考えていくこととします。



第1節 21世紀の「ふくしま」のイメージ

21世紀の「ふくしま」は、新しいネットワーク型の社会です。

そこでは、さまざまな主体が、水平的な広がりの中で相互に結び付きを深め、全体の調和を大切にしながら、その個性や能力を十分に発揮しています。

21世紀の「ふくしま」は、多様で主体性を持った個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる「ふくしま」です。

そこでは、

- ◇一人ひとりが大切にされています。
- ◇男女の性別や年齢などにとらわれず、誰もが自分らしく生きることができるようになっています。
- ◇人々が、多様な生き方を相互に認めあっています。
- ◇誰もが、個人の可能性を最大限に発揮できるようになっています。
- ◇誰もが、自らの生き方を、自らの選択と責任において決めることができるようになっています。



21世紀の「ふくしま」は、くらしの豊かさをより積極的に味わうことのできるゆとりある「ふくしま」です。

そこでは、

- ◇確かな安全・安心を実感することができます。
- ◇ゆとりのあるくらしを送ることができます。
- ◇快適で健やかな生活が実現できます。
- ◇子どもを安心して生み育てることができます。
- ◇都市的なサービスとゆとりある空間、豊かな自然の恵みを併せて享受することができます。



21世紀の「ふくしま」は、新しい時代にふさわしい
創造的で活力ある産業が展開する「ふくしま」です。

そこでは、

- ◇付加価値の高い創造的で活発な産業が展開しています。
- ◇環境やエネルギー問題に配慮した産業が展開しています。
- ◇地域資源を活用した活力ある産業が展開しています。



21世紀の「ふくしま」は、自然と共生する地球にやさしい「ふくしま」です。

そこでは、

- ◇環境への負荷の少ない循環型の社会が形成されています。
- ◇「森にしずむ都市」に象徴される都市と自然との共生が進んでいます。
- ◇豊かな自然環境が保全され、自然と人とのふれあいが進んでいます。
- ◇魅力ある景観が保全・創造されています。
- ◇多様な主体の参加と連携による環境保全が推進されています。
- ◇地球規模での環境問題に地域から取り組んでいます。



21世紀の「ふくしま」は、一人ひとりの積極的な参加で地域の個性を磨く、魅力あふれるふるさと「ふくしま」です。

そこでは、

- ◇一人ひとりの積極的な参加による個性豊かな地域づくりが展開されています。
- ◇地域資源を活用した活力ある産業が展開しています。
- ◇多様な文化などそれぞれの個性に誇りを持ち、その魅力を広く発信できる地域が形成されています。
- ◇都市的なサービスとゆとりある空間、豊かな自然の恵みを併せて享受できる地域が形成されています。
- ◇交流や連携により、常に新たな視点と活力が導入される世界に開かれた地域が形成されています。



第2節 2010年の県民社会の姿

1 人口と経済の姿

ここでは、21世紀の「ふくしま」のイメージを2010年の人口や経済の推計を通じて、より分かりやすく示します。

県の施策は、これらを見通しながら、あるいは、これらをめざして展開されていくことになりますが、こうしたより具体的な姿を描くことにより、県民や市町村等との共通の認識の下、相互に連携・協力しながら県づくりを進めていくことができるものと期待されます。

この推計では、本県のすう勢を基にした将来の人口・経済の姿（トレンド型）と、本県が有する特性やポテンシャルを発揮することによって到達可能なレベルにおける将来の姿（誘導型）とを併せて示しています。

誘導型で示されるレベルも、私たちがともに力を合わせて取り組んでいけば、これを実現することが可能です。

私たちの努力で、より豊かな「美しいふくしま」を将来の世代に引き継いでいきたいものです。



「自然あふれる福島」 蛇石垂弓 さん（郡山市立小原田小学校）



① 人 口

ア 総 人 口

本県の人口は、平成11年（1999年）10月1日現在では、213万5千人となっています。

戦後、本県の人口は、高度経済成長に伴い流出が続きましたが、昭和47年（1972年）の193万9千人を底として増加に転じ、平成9年（1997年）には213万7千人に達し、その後は、ほぼ横ばい傾向で推移しています。

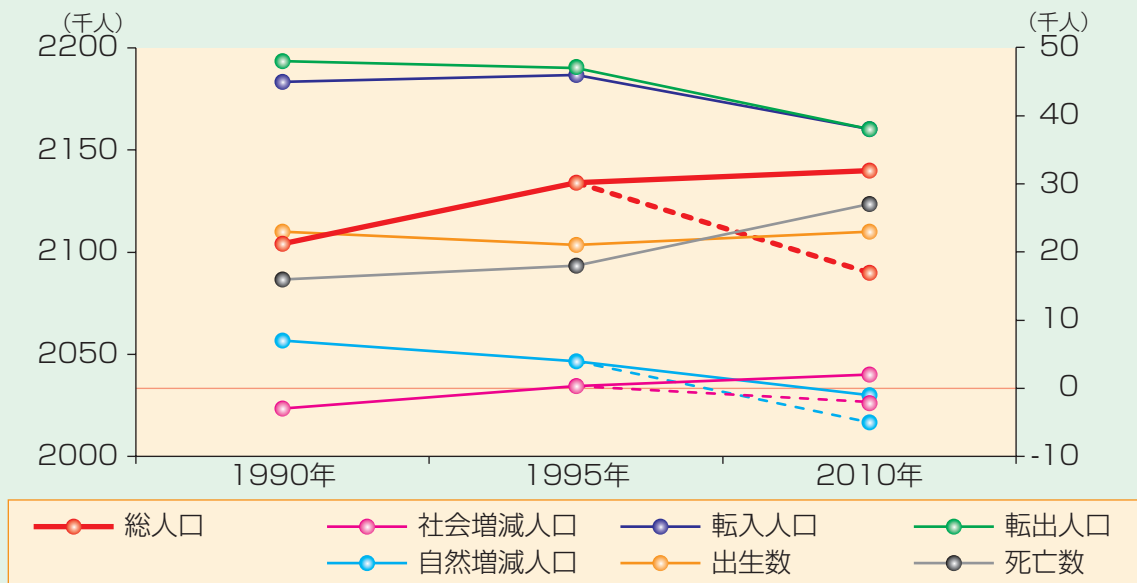
平成22年（2010年）の本県の総人口は、過去の人口動態や国の長期人口推計などを基に予測すると209万人程度に減少するものと見込まれます。また、本県では、社会動態は一部の年を除き転出超過の傾向にあるものの、合計特殊出生率が全国平均を大きく上回っており、今後、この高い出生率を維持しながら、人口の県外流出に歯止めをかけていくことなどにより、214万人程度に到達することが可能と見込まれます。

総人口の見通し

(単位：千人)

区 分		1990年	1995年	2010年
総 人 口		2,104	2,134	2,090～2,140
社 会 増 減 人 口		▲3	0.3	▲2～2
内 訳	転 入 人 口	45	46	38～40
	転 出 人 口	48	47	38～39
自 然 増 減 人 口		7	4	▲5～▲1
内 訳	出 生 数	23	21	22～23
	死 亡 数	16	18	24～27

(注) 端数処理の関係で、内訳と計は一致しない。



イ 年齢階層別人口

平成22年（2010年）の本県人口の姿を年齢階層別にみれば、年少人口比率が15.2～15.4%程度と平成7年（1995年）に比べ2ポイント以上低下する一方、老年人口比率は、22.4～22.7%程度と5ポイント以上上昇するものと見込まれます。

このように、今後、本県は、本格的な少子・高齢社会を迎えることになります。

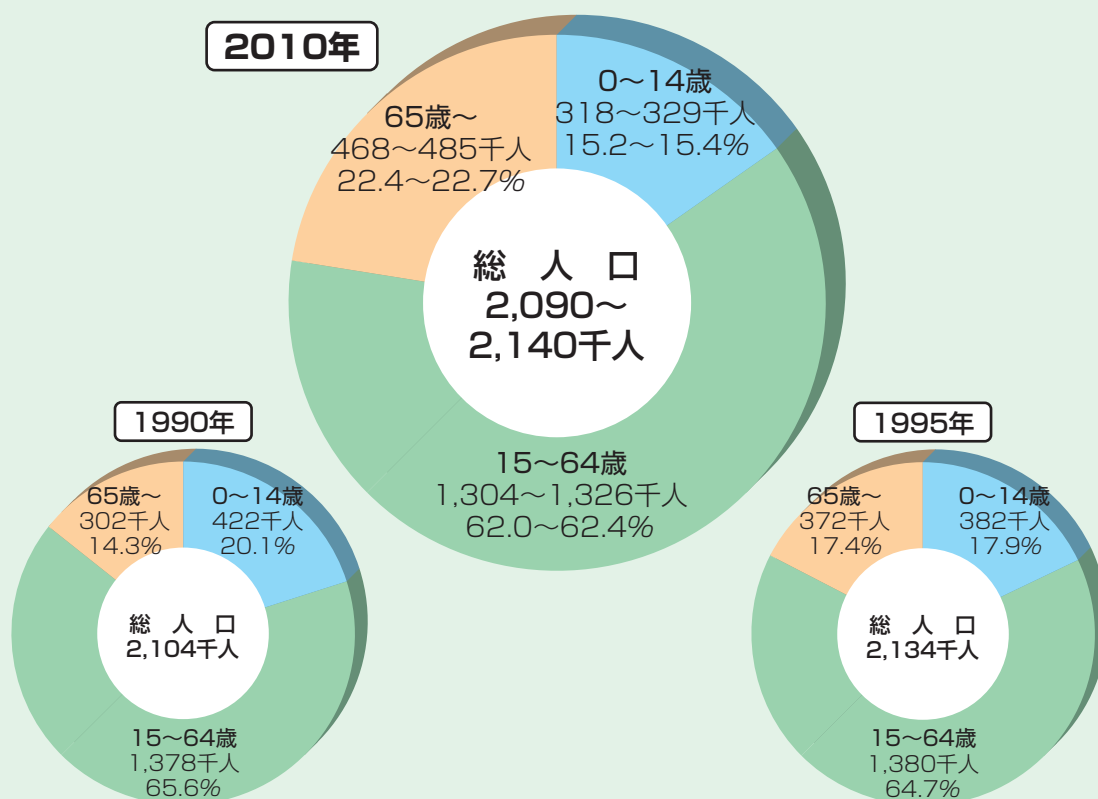
年齢階層別人口の見通し

(上段：千人、下段：%)

区 分		1990年	1995年	2010年
総 人 口		2,104	2,134	2,090～2,140
年 齢 階 層	0～14歳 (構成比)	422 (20.1)	382 (17.9)	318～329 (15.2～15.4)
	15～64歳 (構成比)	1,378 (65.6)	1,380 (64.7)	1,304～1,326 (62.0～62.4)
	65歳～ (構成比)	302 (14.3)	372 (17.4)	468～485 (22.4～22.7)

(注) 1 年齢階層別人口の計は、年齢不詳があるため、また、端数処理の関係で総人口と一致しない。

2 構成比の計は、端数処理の関係で1とはならない。





② 経 済

ア 県内総生産

本県の経済は、いわゆるバブル崩壊後の我が国の景気停滞の中でもプラス成長を維持し、この間、全国トップクラスの高い成長を実現してきましたが、長引く不況によって平成9～10年（1997～1998年）度は、2年連続してマイナス成長となっています。

平成22年（2010年）度の県内総生産額は、過去のすう勢を基に推計した結果では、8兆7,100億円程度と見込まれます。

また、規制緩和や構造改革等我が国経済の体質改善に加え、本県が有する首都圏への近接性や高速交通ネットワークの整備などの高いポテンシャルの発揮などを考慮すれば、計画期間内には、実質年2パーセント程度の経済成長率に到達することが可能と期待され、この場合の平成22年（2010年）度の県内総生産額は、9兆6,800億円程度と見込まれます。

県内総生産の見通し

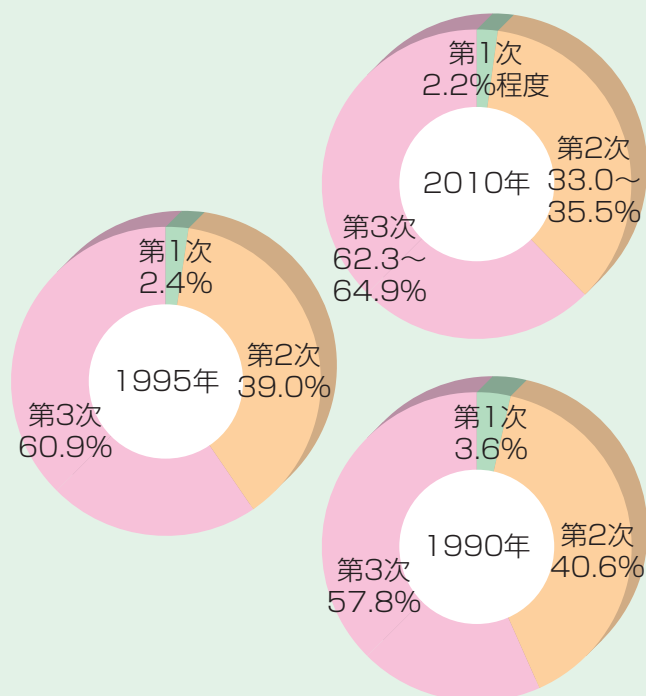
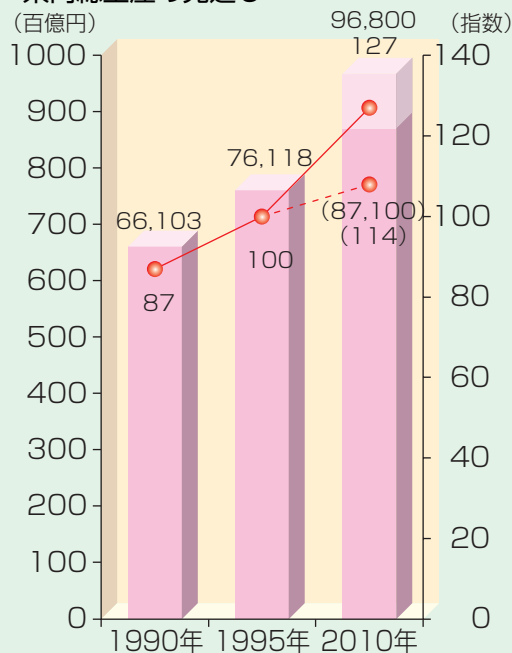
区 分		1990年	1995年	2010年
県計(億円)	指数	87	100	114～127
	シェア	100.0%	100.0%	100.0%
	第1次産業(億円)	2,402	1,821	1,900～2,000
産 業 別	指数	132	100	104～110
	シェア	3.6%	2.4%	2.2%程度
	第2次産業(億円)	26,855	29,707	31,000～31,900
業 別	指数	90	100	104～107
	シェア	40.6%	39.0	33.0%～35.5%
	第3次産業(億円)	38,216	46,377	54,200～62,900
別	指数	82	100	117～136
	シェア	57.8%	60.9%	62.3%～64.9%

(注) 1 数値はすべて平成7年度（1995年度）価格で表示している。

2 第1次～3次産業の計は、帰属利子等が控除されていないため、県計と一致しない。

3 指数は1995年を100とした場合のものである。

県内総生産の見通し



(参考)

産業に関する主な指標の現状と見通し

(単位：億円)

区 分	過去〔1990年〕	現在〔1999年〕	未来〔2010年〕
農業粗生産額	3,817	2,870	3,600程度
製造品出荷額等	48,155	53,896	60,000程度
小売業年間販売額	21,158	21,819	24,600程度

- (注) 1 本指標は、産業に関する主な指標である農業粗生産額、製造品出荷額等及び小売業年間販売額について示したものである。なお、未来〔2010年〕については、前出の誘導型をベースとしている。
- 2 過去〔1990年〕と現在〔1999年〕の欄に記載している数値は、統計実績値である。
- 3 〔2010年〕の数値は、「うつくしま農業・農村振興プラン21」、「福島県商工業振興基本計画うつくしま産業プラン21」の目標値によっている。また、農業粗生産額及び小売業年間販売額にあっては現在の価格で、製造品出荷額等にあつては平成7年度価格で、それぞれ表示している。
- 4 〔1999年〕の数値は、速報値を含んでおり、確定値とは異なる場合がある。
- 5 小売業年間販売額は毎年調査を行っていないことから、過去〔1990年〕の欄には、近似年である1991年の統計実績値を掲載している。



イ 就業者数

本県の就業者数は、これまで、総人口の増加と相まって概ね増加を続けてきましたが、今後、少子化・高齢化が一層進行し、生産年齢人口（15～64歳の人口）が減少していくことが確実な状況となっており、平成22年（2010年）の就業者数は、105～108万人程度となるものと見込まれます。

産業別にみると、第1次産業では就業者の減少が続くものと見込まれ、また、第2次産業では生産性の向上等により、わずかながら減少するものと見込まれますが、第3次産業では、経済のソフト化・サービス化等の進展により増加していくものと見込まれます。

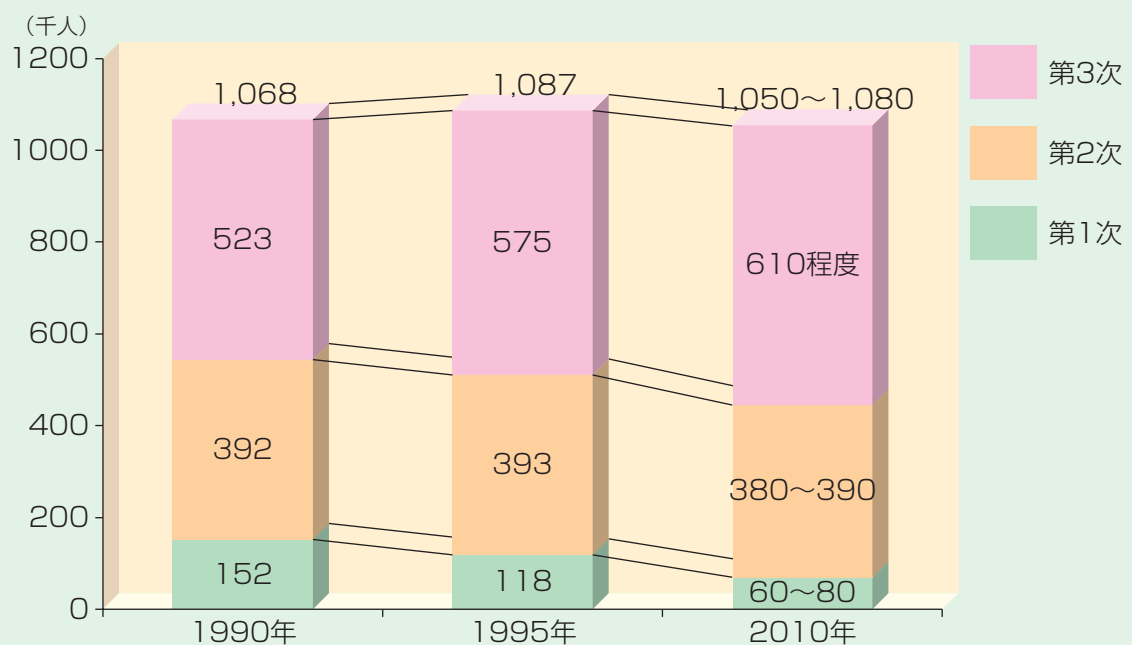
就業者数の見通し

(単位：千人)

区 分	1990年	1995年	2010年
県 計	1,068	1,087	1,050～1,080
シエア	100.0%	100.0%	100.0%
第 1 次 産 業	152	118	60～80
シエア	14.2%	10.8%	5.7～6.9%
第 2 次 産 業	392	393	380～390
シエア	36.7%	36.1%	36.2～36.6%
第 3 次 産 業	523	575	610程度
シエア	49.0%	52.9%	56.5～58.1%

(注) 1 就業者数は、国勢調査による。

2 端数処理の関係で、内訳と計は一致しない場合がある。



ウ 県民所得

本県の県民所得は、これまで、全国トップクラスの高い経済成長率が実現されてきたことを背景に着実に増加しており、一人当たりの県民所得についても、全国との格差が縮小してきました。

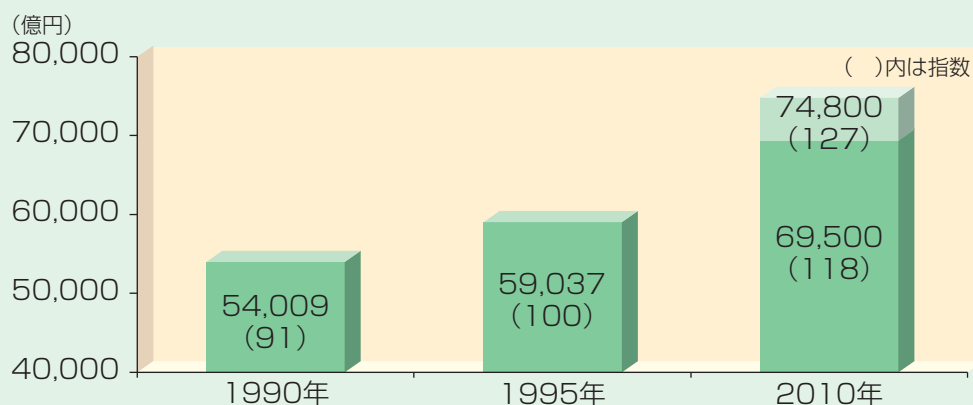
平成22年（2010年）度の県民所得は、6兆9,500億円程度から7兆4,800億円程度と見込まれています。

この結果、一人当たりの県民所得は、3,320千円から3,490千円程度になると見込まれています。

県民所得の見通し

区 分	1990年	1995年	2010年
実 数（億円）	54,009	59,037	69,500～74,800
指数1995=100	91	100	118～127

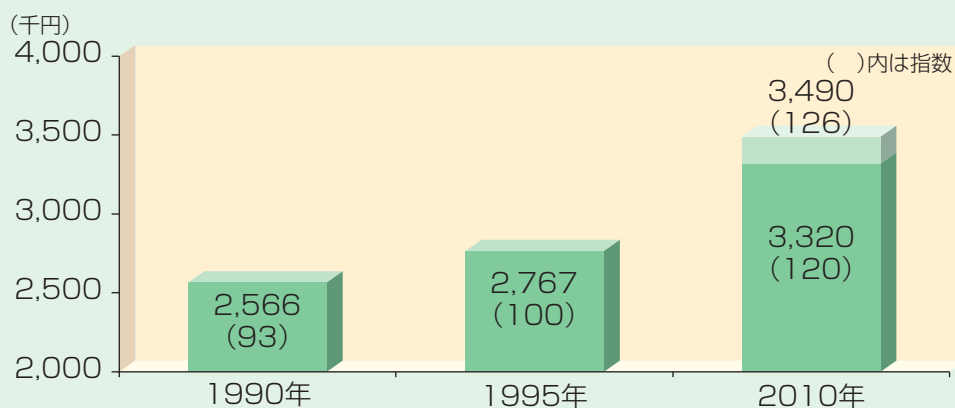
（注）数値はすべて平成7年度（1995年度）価格で表示している。



一人当たり県民所得の見通し

区 分	1990年	1995年	2010年
実 数（千円）	2,566	2,767	3,320～3,490
指数1995=100	93	100	120～126

（注）数値はすべて平成7年度（1995年度）価格で表示している。





2 2010年の県民のくらしを表す代表的な指標

ここでは、2010年の本県のあるべき姿を、県民の生活と密接に関連するさまざまな指標を用いて、分かりやすく示します。

これらの指標により、本県の将来像についての県民の共通理解が深まり、県全体の努力によって、より効果的に県づくりを進めることが可能になるものと期待されます。

① 人に関する指標

指 標	説 明	過 去	現 在	未 来
県や市町村の審議会等における女性委員の割合	政策や方針等の決定の場に、より多くの女性が参画し、男女の共同参画による社会づくりが進められます。	(※県のみ) 7.6% H元	12.3% H11	30%以上 H22
健康で元気な高齢者の割合 (注)介護保険の認定状況からの推計	今後も更に高齢化が進む中で、多くの高齢者が生きがいを持って社会のさまざまな分野で活躍しています。		91.3% H11	90%程度 (現状維持) H22
就業している障害者の数	ノーマライゼーションの理念が浸透し、ともに生きる社会が形成されます。	4,066人 H元	5,236人 H11	6,300人 H22

指 標	説 明	過 去	現 在	未 来
大学等進学希望者の進学率	高校生などの学力が向上し、大学等への進学希望がより多くかなえられています。	67.3% H元	82.7% H11 (H10) 79.6% 全国	90% H22
生涯学習にかける時間 (1人1週当たり)	生活にゆとりが生まれ、個々人が自己の能力開発のための生涯学習に意欲的に取り組んでいます。	63分 S61	56分 H8 65分 全国	100分 H22
青少年のボランティア活動体験率	青少年が地域と積極的に関わりを持ちながら健全に成長しています。	17.1% S61	17.0% H8 13.4% 全国	34% H22
県民のさまざまなボランティア活動体験率	多くの県民がさまざまなボランティア活動に積極的に参加しています。	29.4% S61	33.4% H8 25.3% 全国	55% H22



② くらしに関する指標

指 標	説 明	過 去	現 在	未 来
交通事故における死亡者数	道路環境の整備や県民一人ひとりの交通安全意識の高揚により、交通事故による死亡者が減少しています。	254人 H元	171人 H11	150人以下 H22
河川整備率	河川の氾濫から私たちのくらしを守るための河川整備が進んでいます。 〔整備が必要な河川の総延長 約2,800km ・ 氾濫防御の対象となる人口 約79万人 (H12.4現在)〕	38.1% H元	44.1% H11	49%程度 H22
年間総労働時間	労働時間の短縮が進められ、自分らしい生活を実現するための時間的ゆとりが広がっています。	2,147時間 H元	1,898時間 H11 1,840時間 全国	1,800時間以下 H22
余暇時間（1人1日当たり）	労働時間の短縮などによって余暇時間が増え、文化活動やスポーツなどが盛んになっています。	5時間43分 S61	6時間6分 H8 6時間9分 全国	6時間30分 H22
生活習慣病死亡者の増加率（過去10年比）	高齢化の進行に伴って生活習慣病で亡くなる方は年々増加していますが、県民一人ひとりが積極的に健康づくりに取り組むことで、その増加率を抑えています。	18.3% H元→H11	15.2% 全国	9% H11→H22

指 標	説 明	過 去	現 在	未 来
救急自動車の平均収容所要時間	交通事情は年々厳しくなっていますが、救急搬送体制や救急医療体制の充実が図られ、救急自動車による病院等への収容時間が短縮されています。	25.0分 H元	28.9分 27.1分 全国 H11	27分 H22
週間訪問看護サービス利用回数（高齢者千人当たり）	高齢者が在宅のままで受けられる看護サービスの基盤整備が進み、医療的ケアの充実が図られています。	0回 H2	8.1回 H11	40回 H22
週間ホームヘルプサービス利用回数（高齢者千人当たり）	在宅の高齢者が十分な介護サービスを受けられ、家族の介護負担も軽減されています。	9.2回 H2	25.9回 27.7回 全国 (H9) H11	200回 H22
20～40歳の女性のうち結婚・出産・子育て等のために離職していると思われる者の数(1万人当たり)	子育てに対する社会全体による支援の充実が図られ、女性も仕事と子育てを両立できる社会が築かれます。	1,000人 H2	790人 1,130人 全国 H7	430人 H22
下水道等普及率	衛生的な生活環境を確保し、また、良好な水質を保全するための基盤である下水道、農業集落排水施設、合併処理浄化槽等の整備が進んでいます。	16.2% H元	46.0% 69% 全国 H11	80%程度 H22



③ 産業に関する指標

指 標	説 明	過 去	現 在	未 来
新規就農者数	本県の農業の活力と魅力が増大し、新たに農業に就く者の数が増加しています。	<p>46人 106人 190人</p> <p>H元 H11 H22</p>		
工場立地件数 (累計)	本県の優れた工場立地環境を生かして多くの工場が新設され、活力ある工業生産が行われています。	<p>500件</p> <p>H13→H22 (計画期間内)</p>		
県内企業に おける ISO14001 認証取得件数 (累計)	環境やエネルギー問題に配慮した産業活動が展開しています。	<p>89社 230社</p> <p>H11 H22</p>		
観光客入込数	魅力ある観光資源を生かした滞在・周遊型リゾート地域の形成やグリーン・ツーリズムなどの交流・体験型観光の推進により、より多くの観光客が本県を訪れています。	<p>34,834千人 43,361千人 概ね 50,000千人</p> <p>H元 H11 H22</p>		
新規高卒者の 県内就職率	本県の優れたポテンシャルを生かした産業振興によって県内産業の活力と魅力が増大し、新規高卒者が県内の企業などに就職する比率が高まっています。	<p>71.1% 81.7% 82.3% 全国 90%</p> <p>H元 H11 H22</p>		

④ 環境に関する指標

指 標	説 明	過 去	現 在	未 来
ごみ排出量 (1人1日当 たり)	循環型社会の形成に向け た県民一人ひとりの努力 によってごみを出す量が 抑制され、環境への負荷 の低減が図られています。	960g H元	1,023g H10 (H9) 1,112g 全国	930g H22
一般家庭等 における年間電 力使用量 (1 人当たり)	生活の利便性の向上とと もに電力の使用量は年々 増加傾向にあります。一 人ひとりが省エネルギー に積極的に取り組み、 その伸び率をできるだけ 抑えています。(省エネ ルギー対策を行わない場 合の予測使用量2,078 kwhより14%の節減を めざします。)	1,172kwh H元	1,758kwh H11 (H10) 1,905kwh 全国	1,800kwh H22 2,078kwh (省エネなし)
大気・水質環 境基準達成率	県内各地の大気環境や河 川・湖沼・海の水質環境 が良好に保全されていま す。	大気 73.6% H元	77.1% H11	100% H22
国立・国定・ 県立自然公園 利用者数	本県の豊かで優れた自然 が保全され、多くの人々 が自然とのふれあいを享 受しています。	18,766千人 H元	18,527千人 H11	23,500千人 H22
二酸化炭素排 出量 (指数)	県内の各界各層において 地球温暖化防止に向けた 取組みが積極的に進めら れています。(基準年＝ 平成2年を100として7 ポイント、平成8年より は約22ポイントの削減 をめざします。)	100 H2	114.9 H8	93程度 H22



⑤ 基盤に関する指標

指 標	説 明	過 去	現 在	未 来
一般家庭への コンピュータ 普及率	高度情報先進地域の形成 に向けたさまざまな取組 みが進められ、一般家庭 においてもインターネット による情報通信サービ スの利用が普及していま す。	H元 9.4%	H11 30.0% 37.7% 全国	H22 75%
30分以内に インターチェ ンジにアクセ スできる市町 村数	多極ネットワーク形成の 基盤である高速交通体系 の整備が進んでいます。	H元 31市町村	H11 58市町村	H22 73市町村
七つの生活圏 の中心都市間 の平均所要時 間	七つの生活圏相互の交流 を支える県内道路網の整 備が進んでいます。 (ここでは、隣接生活圏 の中心都市間の平均所要 時間を示しています。)	H元 93分	H11 85分	H22 77分
福島空港利用 者数	福島空港の利便性がより 一層向上し、国内外との 交流がますます盛んにな っています。	H5 298千人	H11 758千人	H22 1,000千人以上

第3節 新世紀へのメッセージ

本県は、「うつくしま未来博」の開催や首都機能移転への取組みを通じてさまざまなメッセージを発信しています。

特に、うつくしま未来博でとられている、準備や計画の段階から多くの人々の参加によって一つのものごとをつくりあげていくしくみや、自然の豊かさと美しさを都市空間に最大限に生かした自然に優しい小負荷型の「森にしずむ都市」の考え方は、新世紀へ向けた「ふくしま」からのメッセージということができます。

1 「うつくしま未来博」の開催

うつくしま未来博は、“うつくしま、ふくしま。”県民運動の第Ⅱ期シンボル事業として「美しい空間 美しい時間」をテーマに2001年（平成13年）に開催されます。

この未来博は、「すべての人々が、豊かに安心してそれぞれの多様なくらしを実現することのできる新しい地域づくり」について内外から知恵を結集し、ともに考え発信しようとするもので、多くの人々が参加・交流・体験できる博覧会をめざしています。

21世紀初頭は、新たな地域づくりについて考えるべき重要な節目の時期です。

未来博への参加の体験や、未来博が描く21世紀のイメージは、今後の地域づくりを推進する上で、極めて重要なものということができます。

そして、そこからさまざまな提案がなされるものと期待しています。



「うつくしま未来博」会場イメージ図

2 首都機能移転への取組み

首都機能移転は、国会や主要な中央省庁等を東京圏以外の地域に移すことによって、政治・行政の中心地と経済・文化の中心地を分離しようとするものです。

こうすることによって、東京一極集中の是正と災害対応力の向上を図ることができるなど、首都機能移転は、規制緩和、行財政改革等の推進とともに、21世紀にふさわしい社会システムを築いていくための重要な意義を有しています。

平成11年（1999年）12月、本県の阿武隈地域等を含む「栃木・福島地域」が首都機能移転先候補地に選定されました。

このことは、北東国土軸上の本県の優位性、あるいは本県がこれまで進めてきた「美しい」という概念を取り込んだ県づくりや多極分散型の県土構造を大切にする考え方が、高く評価されたものと考えられます。

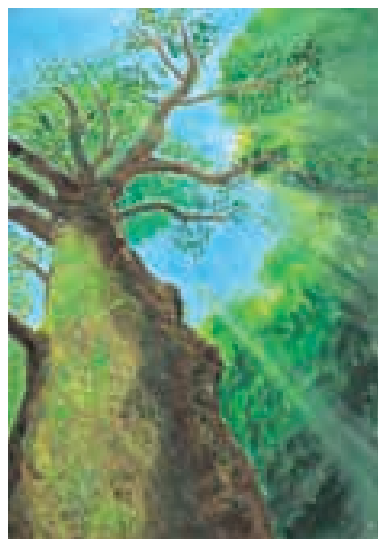
「栃木・福島地域」への首都機能の移転は、本県の文化・教育や産業等へ大きな波及効果をもたらすものと考えられ、また、七つの生活圏の考え方にも大きく影響するものと予想されますが、これを単に国の施策としてではなく、県づくりという視点で主体的にとらえ直し、県民福祉の向上や地域の発展に結び付けていく必要があります。

このような意味から、首都機能移転は、21世紀の「ふくしま」のイメージにも整合するかたちで推進されるべきものと考えています。

また、本県が提唱する新首都像「森にしずむ都市」は、人と自然との調和に基づく新しい都市像を提言するものであり、この考え方を一層各方面に浸透させることが、自然との共生をめざす本県への共感を呼び起こすことにもつながります。



「森にしずむ都市」イメージ図



「大自然」 金刺晃史 さん
(福島市立野田中学校)

第4章 計画の実現に向けて

この計画は、「人」と「地域」の可能性が最大限に発揮できる新しいネットワーク型社会の形成をめざすものです。

「地域」の可能性を最大限に発揮するためには、住民や行政が対等のパートナーとして相互に連携協力しながら、それぞれの地域の個性を生かしていく必要があります。

それぞれの地域が、他を模倣することなく、自ら考え、自らの地域に最適の状態をつくりあげること、こうしてはじめて、他を羨む必要のない地域、すなわち誇りの持てる地域が形成されます。

このようなことから、今後、地域づくりにおける県民や市町村の役割が一層重要になるものと考えられます。

一方、地域社会では、県民や企業などさまざまな主体が活動しており、その活動が全体として社会の方向性を定めています。

計画の実現を図るためには、さまざまな主体が、共通の理解を持ちながら、それぞれの役割を意識し、相互に連携・協力することが重要です。





第1節 “うつくしま、ふくしま。”県民運動

本県は、平成3年からおよそ20年間という期間を設定して、県内外の人々から共感と協力を得ながら、世界のモデルともなる「21世紀の新しい生活圏－美しいふくしま－の創造」の実現を目標とする“うつくしま、ふくしま。”県民運動を展開しています。

運動は、2つの柱から成り立っています。

一つは、県全域で行う「みんなで進める一歩一歩運動」で、環境、交流、共生、文化の4分野でテーマを設け、県民が一体となって取り組んでいくものです。

もう一つは、地域で進める「ふるさとの自慢づくり運動」で、生活圏ごとに、地域の誇りやシンボルを見つめなおし、それをテーマとして磨きをかけながら地域づくりを進めていこうとするものです。



「環 境」 国蝶「オオムラサキ」の保護



「交 流」 高校生の交換ホームステイ



「共 生」 森林ボランティア



「文 化」 太鼓の伝承

さらに、運動期間を4つに分け、約5年ごとにシンボル事業を設定し、これを柱として運動全体を盛り上げていくこととしています。

第Ⅰ期（平成3～7年 1991～1995年）は、この運動の目的や理念を広め啓発していく「共感づくり」の時期と位置付けられ、ふくしま国体をシンボル事業として、来訪者を温かく迎える運動や花いっぱい運動などを展開しました。

その結果、ふくしま国体や全国身体障害者スポーツ大会（うつくしまふくしま大会）が大成功を収めるとともに、本県の自然や街並み、温かな県民性などを広く全国にアピールすることができました。



花いっぱいのまちづくり

現在進めている第Ⅱ期運動（平成8～13年 1996～2001年）については、共生、交流、文化などの幅広い観点から取り組むこととし、

美しい街並みをつくる運動、身近な公共施設を美しくする運動、各家庭・事業所の廃棄物を減らす運動、ボランティアを通じ互いに助け合う地域づくりなどを展開しています。

また、第Ⅱ期シンボル事業の「うつくしま未来博」は、多くの人々によって作りあげられる博覧会をめざし、平成13年(2001年)夏の開催に向け、さまざまな取り組みが進められています。

「美しいふくしま」の実現は、「ふくしま新世紀プラン」やこの計画を貫く基本的な考え方です。そして、その実現のためには、県民一人ひとりの参加が重要です。

第Ⅲ期以降については、県民の提言や各期の運動の成果を踏まえながら方針を定め、引き続き県民や市町村、県などが一体となった運動を展開し、地域や県全体の魅力を一層高めていくこととしています。

第2節 役割分担と連携

1 県民参加による地域づくり

社会が成長から成熟へ移行していく中で、活力と魅力にあふれた豊かな地域社会を形成していくためには、より一層、地域の特性を生かした個性ある地域づくりが必要となっています。

このような中で、県民自らも地域社会をつくり上げる主体としての役割意識と責任ある態度が求められています。

また、NPOやボランティア活動への参加を通じた地域づくりへの貢献も重要性を増して



います。

さらに、日々のくらしを円滑に進め、調和ある社会を実現するためには、社会としての最低限のルールを確認する必要がありますが、このようなルールの確立は、県民一人ひとりの自覚に負うところが大きいものと考えられます。

一方、行政が提供するさまざまなサービスを支えるために必要な経費は、直接あるいは間接に県民の負担によるものです。

これらを適正に負担し、その使途について関心を持つことも重要です。

2 市町村主体の地域づくり

社会の成熟化に伴い住民ニーズは一層多様化し、我が国の戦後の発展を支えてきた画一的・中央集権的行政システムは、もはや有効に機能しなくなってきています。

また、地方分権の進展によって、地域のことは地域で決定できる素地が整いつつあります。

このような中で、基礎的な地方公共団体として、住民に対する身近な行政サービスを担う市町村は、その地域を最も良く知るものとして、多様化する住民ニーズや地域の特性を踏まえながら、地域のよりよい姿を考え、その姿を提言していくことが期待されています。

この計画は、このような各地域・各市町村のさまざまな提言が実現されていく過程を通じて、県全体の基本目標が達成されるという基本的な考え方の下に策定されています。

このような市町村主体の地域づくりを進めるため、県は、これまで以上に市町村との連携を強化していきます。

また、市町村に対しては、この計画への理解を期待し、さらに、その実現に向けた協力をお願いするものです。

3 計画推進に際しての県の姿勢

① この計画での県の役割

県は、この計画の基本施策体系に基づき、基本目標の実現に向けた施策を総合的・体系的に展開していきます。

また、この計画では、県の役割をより明確にするため、特に重点的に取り組む施策（重点施策）については、努力目標としての指標を掲げています。

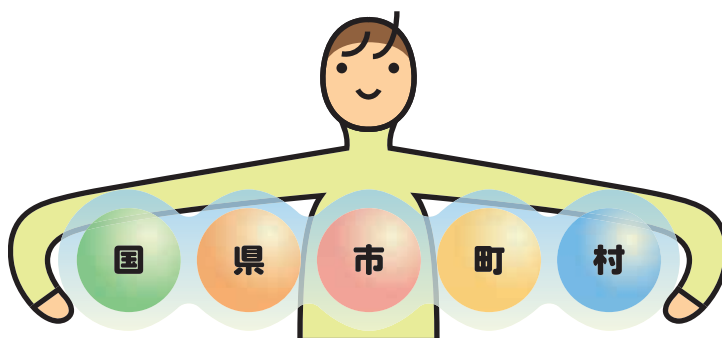
② 県の基本的な役割

県は、市町村を包含する広域の地方公共団体として、市町村の区域を越える広域にわたる県民サービスの提供や、市町村の実情に応じた補完・支援を行います。

③ 市町村等とのパートナーシップの強化

県は、地域づくり・県づくりを行うさまざまな主体とのパートナーシップを強化するため、次に掲げる取組みを進めます。

- 国に対しては、一層の地方分権の推進と地方税財源の充実及び規制緩和を求めています。
- 市町村に対しては、その機能が十分に発揮できるよう、今後とも権限の移譲に努めるとともに、地方分権時代にふさわしい行政体制の整備に向けて、市町村がその意志に基づき主体的に広域連合や合併について取り組めるよう支援します。
- 県民とのコミュニケーションを大切にします。このため、
 - ◇ 広報・広聴活動を充実します。
 - ◇ 行政の透明性を確保します。
 - ◇ 説明責任を真摯に果します。
- 地域づくり団体、NPOを支援していきます。



④ 行財政改革の推進

県は、県の諸施策を効果的に展開するため、次に掲げる基本的な視点に立って、不断に行財政改革に取り組めます。

- 県自らが情報発信に努めるとともに県民と情報を共有し、「公開」と「説明」による「わかりやすい県政」を推進します。
- 県民や民間部門、市町村などと県がそれぞれの役割分担を明確にしながら課題解決に取り組む「ともにつくる県政」を推進します。
- 新たな行政需要に機敏かつ的確に対応するため、より一層費用対効果を考えた「簡素で効率的な県政」を推進します。
- 市町村等と連携しながら、地域の実情に応じた地域づくりを推進するため、地方振興局の機能の強化を図ります。



第3節 実効性の確保

1 各年度における推進方法

県の施策については、政策評価システムを用いて、その有効性を評価することとします。

基本施策体系については、社会経済情勢や財政状況に柔軟に対応していく必要があることから、この計画には目標となる指標は掲げていませんが、別途、政策評価システムで評価の基準となる指標を設定することとしています。

また、重点施策体系については、この計画に掲げられた指標の推移等に着目しながら、その施策に対応する事業（重点事業）を実施していくこととしています。

この重点事業については、財源の優先的な配分を図り、基本目標の実現に積極的に取り組んでいきます。

2 計画の進行管理

この計画には、2種類の指標が掲げられており、それぞれについて進行管理を行っていくこととします。

一つは、2010年のふくしまを表す代表的な指標で、この指標は、県民を含めた県全体としての努力目標の意味を持っています。つまり、この指標の改善は、県全体の努力の成果とみることができます。

一方、重点施策体系に掲げる指標は、県の施策の努力目標であり、県の施策は、この指標の改善をめざして展開されます。

これらの指標の推移については県民に公表し、その提言などを受けながら、よりよい事業を実施していきます。